

進捗状況の概要

【事業全体関連】

事業2年目である平成27年度において、学長を中心とした事業学内実施体制のもと、YU-AP事業推進委員会（5回開催）、テーマ別タスクフォース（テーマⅠタスクフォース4回開催、テーマⅡタスクフォース4回開催）及び自己点検・評価タスクフォース（1回開催）を開催し、事業ロードマップに基づいた課題整理及び実施検討を行った。また、計3回のアドバイスメetingを開催し、専門家による指導助言を受け、今後の事業展開に活かす知見を得た。さらには、平成28年3月には外部評価委員会を開催し、事業2年間の取組について評価を受け、その結果と対応策について学内関係者に共有を図った。本事業専用ホームページによる事業案内を迅速に行うとともに、ニュースレターやアニユアルレポートなどの広報物の発刊による事業成果の情報発信を積極的に行った。

平成27年9月には、教員、職員、学生の協働で共有ワークショップを開催し、教員、職員、学生を合わせて70名近くの参加者があり、参加者全員で「あったらいいな、こんな授業」をテーマにシラバス作成を行うとともに、学生発案型授業などの取組について意見交換を行った。

平成28年3月には、山口大学主催にて「AP事業成果発表ジョイントフォーラム」を開催し、学内外から100名近くの参加者があり、共催した山口・広島地区のAP採択校との情報交流の場づくりとなった。本フォーラムの内容については、平成28年3月15日付け『山口新聞』、平成28年3月16日付け『宇部日報』に記事掲載された。

【テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）関連】

平成27年度導入のALポイント認定制度を運用するとともに、ALポイントと授業外学修時間との相関分析等を行い、学内のFD研修会にて共有するほか、学会等において成果発信を行った。平成28年2月には「山口大学アクティブ・ラーニングベストティーチャー表彰実施要項」が策定し、平成28年度以降のアクティブ・ラーニングベストティーチャー表彰の環境を整えた。

平成27年7月・10月に、アクティブ・ラーニングの事例紹介を中心としたFD・SDワークショップを開催し、学内外から大勢の参加者があり、アクティブ・ラーニングの具体的な手法及びICT機器の活用等について情報提供を行った。平成27年9月に、ループリック作成のためのFD・SDワークショップを開催し、学内の教員、学生を合わせて20名近くの参加者があり、ループリック活用に関する意見交換を行うとともに実際の作成と活用を行った。

平成26年度に整備した正課外教育プログラムにおけるシラバスフレームの運用を進めるとともに、新たな正課外教育プログラムであるSLP（スチューデント・リーダー・プログラム）を開発・実施し、平成27年度において6回・150名近くの参加者があり、参加者同士の学び合いなどを行った。

【テーマⅡ（学修成果の可視化）関連】

全学的に学部1年生・3年生を対象に、学修到達度調査及び学修行動調査を実施するとともに、ループリック作成ワークショップの開催やループリックハンドブックの刊行を通して、ループリックの開発・運用を図った。また、学修成果可視化モデルにおける分析指標開発に取り組むとともに、平成27年5月に『山口大学教育理念』を整理することで「山口大学生に期待される汎用的能力」を明確化した。さらに、ラーニングアドバイザーやキャリアカウンセラーによる学修・キャリア診断について、国内外の先進的取組事例を情報収集するとともに、現状の把握と方針策定のための取組を検討した。

平成27年12月に、教学マネジメント強化のための全学SDセミナー（ワークショップ）を開催し、学内外から130名近くの参加者があり、大学職員の専門性を向上させるために必要な知識や能力について共有する機会となった。平成28年3月に、教学マネジメント強化のための教学IR関連のFD・SDワークショップを開催し、教育の質保証に向けた教学IRについて共有し、データを活用するためのリサーチクエスチョン作成の体験を通して、教学IR推進のための機会を提供した。